



【4月会山行Aパーティ】 4月のラッセルクイーン

大戸沢岳～ムジナクボ沢～三岩岳～黒檜沢

前田(奈)

【日時】 2012年4月7日(土)～8日(日)

【メンバー】 L中村、SL棚橋、前田(奈)

昨年11月に入会した私にとっては、お試しを除くと初の会山行。新人を考慮していたのか、メンバーは強力布陣！これは南会津の癒し系春山スキー三昧と勘違いのバチが当たったのか、ラッセル全力投球の山行でした。

4月7日(土) 雪

7時に前泊地で出発式。雪がちらちら降っている。私たちAパーティは檜枝岐の見通橋近くの駐車場所に中村車を泊め、7時半過ぎにテニスコート脇の建物の横から下ノ沢左岸尾根に取り付いた。この尾根は地図上では広葉樹林のきれいな等高線を描いているが、実際は下部は落葉松の植林地で、尾根上を行こうとしても岩が露出しており藪も多し。尾根の南側から巻き気味に登るが、落葉松の枝が散乱し登りにくいことこの上ない。枝にスキーが乗るとツルッと滑り、なおかつ雪面も少しくラスト気味なので、長板の中村リーダーと私は苦勞した。フリートレックの棚橋さんは軽快に登って先行してもらう。

それにしても落ち枝が多い。週初めに「春の嵐」低気圧が通過した影響かもしれないと中村さんと話しながら、登ってはズルズルを繰り返す。だいぶ待たせてしまった棚橋さんが最後の急登の先に見え、たまらずスキーを外してアイゼン歩行に切り替えた。1207mを過ぎたあたりでやっと棚橋さんに追いつき、その先は広葉樹の快適斜面となった。この時点で既に10時近くになっており、だいぶ消耗していたが、後は緩いところを快適に行けるかな、と思ったのが本日2回目の勘違いだった。

枝と格闘して気づかなかったが、朝は舞う程度だった雪がガンガンに降っている。棚橋さんは元気いっばいでトレースをつけてくれていたが、フリートレックにファット板が負けていられないと私もラッセル志願。先月、パウダー時期を外して安く(と言っても家計は痛手!)購入したばかりの太板であったが、パウダーの残り香を期待して意地汚く持ってきた甲斐があった。話には聞いていたが、ラッセルにも効果絶大。足を出す、トップが自然に雪面に出る、踏む、足を出す、を繰り返していると、頭の中にはQueenの「We will rock you」が流れ、いつしかラッセルマシーンならぬ自称ラッセルクイーンとなっていた。ズンズンパッ♪のリズムで寝不足で調子が出ない中村さん、もっとラッセルしたそうな棚橋さんにもほとんどラッセルを譲らず、1回目の交信時間である14時ちょうどに大戸沢岳山頂に辿り着いたのだった。



強風で凍てついた山頂で中村さんが定時交信するも、他のパーティは稜線にも着いていない模様。やはり皆季節はずれのラッセルに苦勞しているようだ。ウイーアーザチャンピオン！？とクィーン気分から抜けきれない私をおいて、冷静なリーダーとサブリーダーはムジナクボ沢の下降点を探しにさっさと行ってしまった。

そして念願の滑降。来シーズンまでお預けと思っていたパウダーだが深い！そして軽い！中村さんは得意のすり足ターンで気持ち良さそうに滑っていく。傾斜が緩く、深雪なので、棚橋さんは私たちのトレースを辿って苦勞して降りている。私はと言えば、ファット板は本当に浮くもんだとそればかり感心していた。もちろん、ご褒美の極上パウダーでした。

100mほど下ると沢が狭まり、余計に雪が深くなる。スキーが走らず我慢して標高1700m近くまで下ったが、これ以上は下りラッセルになるのでここで幕ということになった。樹林帯の雪崩の心配が比較的少なそうな場所を天場とし、越後仕様ジェットボイルの活躍で水づくりをしつつ宴会を開始する。中村さんのパプリカから始まり、食後の棚橋さんの奄美製ラム酒が出てきた頃には記憶が曖昧になり撃沈。雪は夜間も降り続き、風も強かったが濡れも無いテントでは快適に過ごせた。

4月8日（日）雪のち晴れ

朝起きてみると雪はまだ降り続けている。予報では今日は天気回復とのことだったが、回復は遅れているようだ。尾根に遮られて他のパーティの動向もわからないまま出発。ムジナクボ沢の枝沢との間の広い斜面を登っていく。今日も深雪だが、中村さんも復調し、3人でラッセルを交代しながらさほど苦勞もなく稜線に着いた。天気も回復してきており、昨日は見えなかった周りの景色が見えるようになった。大戸沢岳の北西面は真っ白で良さそうなバーンが広がっている。向かっている2057ピークの南西面も魅力的。稜線に着いてからは、三岩岳に向かう概ね平坦な歩きとなった。2060ピークの手前で10時の定時交信となり、中村さんと棚橋さんが交信を図るも繋がらない。まだ皆稜線の下にいるのだろうか？

ほどなく三岩岳山頂に到着したが、貸切でトレースも無い。今回は山頂での集中の予定はなかったが、少し人恋しく寂しい思いでいたその時、三ツ岩の方から人の姿が！長谷川Pだ！ユラリと現れた3人を迎えるうちに、頭の中にはエアロスミスが流れ、映画「アルマゲドン」で任務を終え帰還した仲間を迎えるNASAスタッフの気持ちになる。リヴ・タイラーでもいいけど。（映画自体は王道ハリウッドな話だったような。）

長谷川じゅんぺー君、佐貫さん、耕至さんが山頂に到着し、再会の嬉しさと情報交換で話が弾む。これが会山行の醍醐味！？佐貫さんの「昨日の出發からまだ1度もシールを剥がしていないわよ～」の声に往路の苦勞が偲ばれた。ミニ集合写真を撮った後、郡界尾根を下る長谷川Pに別れを告げて私たちAパーティも通称「国体尾根」に向け出發する。先ほどまで降っていた雪は止み、振り返るとさっきまでいた三岩岳のピークが見えた。空は一気に晴れて青い空がまぶしい。今回の会山行で初めて周囲の南会津の山々



が一望できた。昨シーズン会津駒をキリンテまで滑ったのが初めてで、まだこの山域に詳しくくない私。来シーズンも山スキーで通って仲良くなりいたいと思う眺めだった。

窓明山との分岐までの広い尾根は快適で、中村さんに動画を撮ってもらいながら歓声をあげて気持ち良く滑る。が、分岐を過ぎ東寄りに向きを変え標高を下げるに従って急速に雪が重くなっていった。本来の計画ならこのまま尾根通しで行き、保太橋沢右岸を滑る予定だったが、黒檜沢へ下る斜面がいかにも美味しそうというリーダーの判断により、1699m付近で黒檜沢に向け滑り込むことになった。

中村さんが率先して華麗に滑りこむ、が、あれ？さっそく転んでいる…。続く私も棚橋さんも、重い雪に大苦戦。ころころ転びながら何とか降りて行く。1150m付近では滝も出ており、慎重に巻いて下る。本流に出会うと沢はしばらくは埋まっていたが、徐々に水面が現れ初め、左岸をうまくつないで下る。一箇所微妙なトラバースで私がバランスを崩しゴロゴロと落ちてしまった場面もあったが、そこは幸い沢が出ておらず、大事には至らなかった。くわばらくわばら。

夏道と合流する辺りでスノーブリッジを右岸に渡り、後はほぼ夏道どおりで小豆温泉のスノーシェッドの上にぴったりと到着。これも中村さんのルートファインディングのおかげか。スキーを担いで温泉にゴールすると、施設の前では古野Pの皆さんが迎えてくれた。藤岡さんが「あんなに飲んだのは久しぶり…」と言っていたのが不思議だったが、謎は後で解けた。

初めての会山行で思わぬラッセルとパウダー、悪雪と盛りだくさんでしたが、ルート取りやいろいろな場面での判断、雪山で(できるだけ)濡れずに快適に泊まる技術など大変勉強になりました。初日の不調な中村さん、テントで饒舌な棚橋さんの知らなかった一面にも会うことができ、とても楽しかったです。

【行程】 4/7 檜枝岐(7:40)～大戸沢岳(14:00)～1725mBP(15:00)

4/8 BP(7:30)～三岩岳(10:30/11:00)～小豆温泉(13:30)

【地図】 檜枝岐、会津駒ヶ岳、高幽山、内川



走破したルートは綺麗な弓なりを描いていた



三岩岳で集中!

【日時】 2012年4月7日(土)～8日(日)

【メンバー】L長谷川(じ) 佐藤 佐貫

Bパーティは、健脚なメンバーが集まった。当初計画ルートを見たとき、初日の行程が長く感じた。一方ミチギノ沢は昨年のGW山行で訪れており、もう一度泊まりたいと思っていた幕場にまた戻ってこれる嬉しさもあった。時期外れの大雪で幕予定地を上げざるを得えなかったが、その他は計画通り実施することができた。



【4月7日：雪】

小豆温泉に車を置かせて貰い、保太橋沢橋を渡ったところからスキーを履く。ルートとしては、窓明山へ通じる登山道を辿るコースとなる。平年の春時期であれば、十分辿り付ける距離であるが、夜半から振り始めた雪のラッセルに苦戦し、時間を取られる。家向山近辺で12時を過ぎていた。



ここから窓明山まで標高差450m+2km強の水平距離がある。ラッセルしながら、「窓明山の山頂まで果たして届くのだろうか」と不安がよぎる。14時になり他パーティとの無線による交信を行う。どのパーティも時期外れの大雪に苦戦しているようだ。唯一Aパーティだけ稜線を超えようとしていた。

この時、我々はまだ1500mを超えた程度だ

った。窓明手前での幕も考えながら、黙々とラッセルに励む。

ホワイトアウトの中、慎重に稜線を辿り窓明山山頂に到着した。稜線の雪庇を懸念していたが、登山道部分は雪の吹きだまりが出来ており難なく稜線に出ることが出来た。さあ、ここからどうするか相談。皆の頭の中にあったのは、「早くテントに入りたい！」だっただろう。時間も予定より遅れている。稜線は風が強いので、ミチギノ沢方面の西側の樹木帯にテントを設営した。夜は佐貫さんの中華風ペミカン+ぶっこんじゃえ(何かがぶっこまれていた)を、たらふく3人で4人前頂いた。キノコ類の乾燥野菜がたっぷり入った坦々鍋だ。腹いっぱい満足して寝袋に潜り込んだ。

【4月7日：雪のち晴】

2日目も行程は厄介だ。三岩岳までの稜線は風の通り道で、スキーでは歩きづらい。稜線西側の斜面をトラバース気味に三岩岳方面に進む。時折、雲間から晴れ間が覗き、天気は回復しつつあったが、依然ガスが濃い時間が長い。

地形図上の「三ツ岩」付近で目印を設置し、山頂を目指す。三岩岳の山頂に近づいた辺りでユラリと人影が見えた。図らずしてAパーティとのプチ集合。同じ山域で活動しているとはいえ、別行動しているパーティと山頂で会うというのは嬉しい気持ちになるものです。彼らを見送って我々も滑り始めると天気が急速に回復し、周囲のガスが晴れていった。三岩岳南東の尾根は、ロケーション・雪質ともに最高だった。2日間ひたすらラッセルを繰り返してきたご褒美と言える。その後は気温の上昇と標高が落ちるのが重なり、下大戸沢出合いまで腐れ雪と戦いながら滑り降りる。後ろを振り返れば三岩岳とその稜線が真っ白に輝いている。三ツ岩沢／中ノ沢の素晴らしい斜面が稜線へと向かっている。また滑りたいルートが増えてしまった。あとは、大戸沢のスノーシェード手前で丸太橋を渡り、葎ヶ平で車を回収し小豆温泉へ向かった。

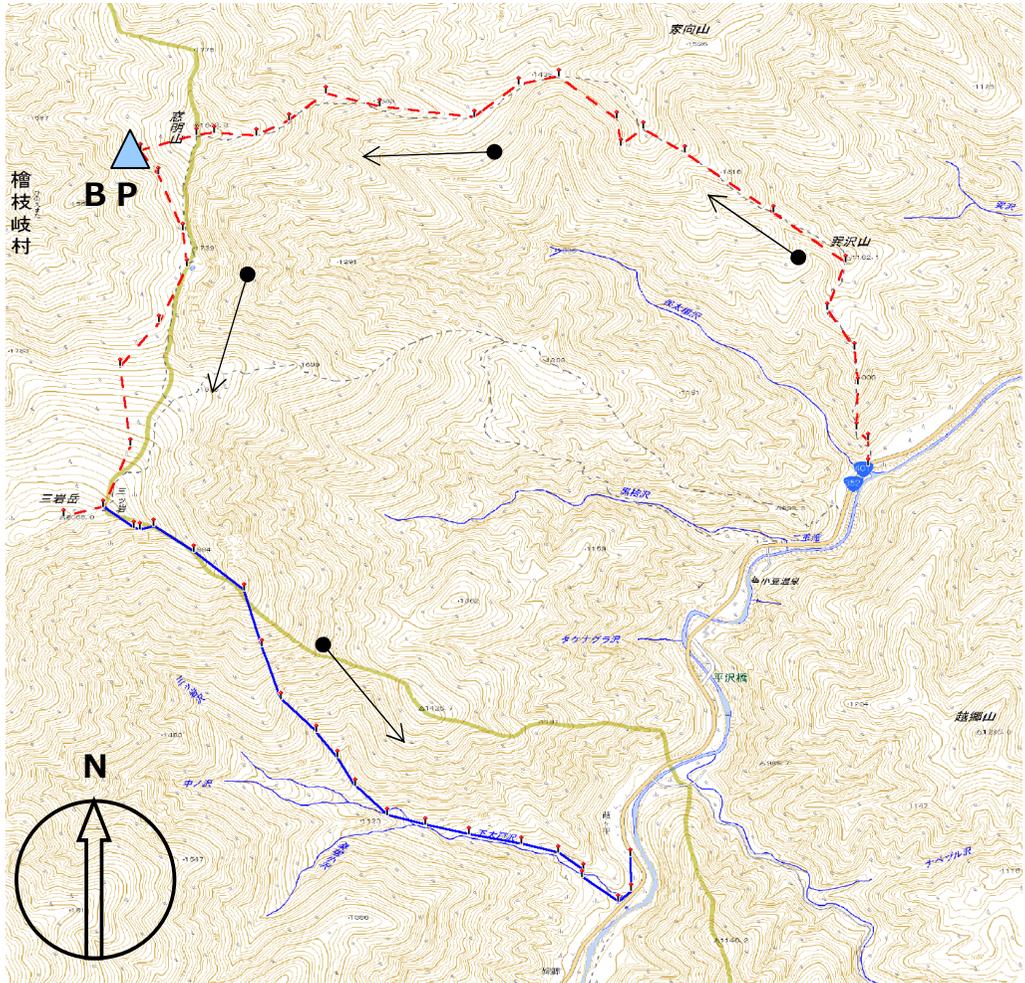


Aパーティと会う

【行程】

(4/7) 小豆温泉(8:40)～巽沢山(10:30)～家向山手前 1520m(12:00)～窓明山(15:30)～ミチギノ沢上部B P 1700m付近(16:00)

(4/8) B P (7:00)～1739m鞍部(8:00)～三岩岳山頂(10:45)～三ツ岩沢左岸尾根 1600m(12:00)～下大戸沢 1050m(13:00)～葎ヶ平(13:30)



ルート図（赤点線：登り、青実線：滑り）

【地図】 檜枝岐、内川



まさかの4月パウダー

会山行Cパーティ 南会津 三岩岳

前田（た）

【日時】 2012年4月7日～8日

【メンバー】 L前田（た）、田辺、渡辺、栗原

Cパーティーは、当初の計画では三岩岳～坪入山～窓明山間を沢の源頭でつなぐという遣り甲斐のあるルートだったが、計画の中程が抜けて三岩岳周回となった。山行後は達成感でいっぱいだったが、後から考えるともう少し頑張って足を伸ばせば良かったかなとも思う。せっかく体力のあるメンバーに恵まれたのに、特に栗原さんごめんなさい。

今回、初めて会山行のパーティーリーダーをやらせて頂いたのだが、心憎い演出で発表が突然だったので、急にプレッシャーを感じる事となった。会山行は考慮することが多く、計画中には利香さんから夜中のアドバイス電話をもらったりして助けて頂いた。

4月7日

葎ヶ平のノーシェッド脇から出発。入山口としては珍しく広い尾根でわりと快適な出だしたが、尾根が細くなりだした頃、序々にクラスト気味になってくる。前夜の雪も落ち着き晴れ間もでていて暑ささえ感じることもあった。このまま天気は安定していくのかなと思っていたが、後で大間違いに気づくのであった。

郡界尾根にでる標高1200m付近より底のクラストが無くなってラッセルになってくる。とても4月とは思えない雪の深さで、早くも細板で来たことを後悔しはじめた。事前には雪が続いているのでラッセルになるかもという話もあったが、自分には全く想定外の雪の量でほとんど冬並みではないかと感じた。

次郎さんは終始安定した登り。ラッセル好きのメンバーには気持ちよくラッセルを伸ばして頂くが、やはりこの雪で全体的にペースが落ちているようだ。その上稜線に近づけば近づくほどガスも次第に濃くなって寒くなっていく。だんだん気持ちもペースダウン、会山行でなかったらあのまま登り続けられたらだろうか。14時の更新でAパーティー中村さんと連絡がとれるが、Aパーティーは登頂、他Pはまだのよう。こちらは頂上まで一息、少しは勇気づけられたかガスの中黙々と登る。三ツ岩はうっすら見える程度、稜線にでたらほとんど何も見えない中なんとか15時登頂。

風をさけ、樹の下でシールを剥がす。さあ後はミチギノ沢まで下るだけだ。予定より少し上で泊まろう、なんて考えていたらそれも甘かった。広い尾根状だが視界がないの

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>

でルートが取りにくいし、細かい地形が見えなくてよく転んでしまう。だいぶ我慢して滑ったかなというところで、利香さんから提案があった。「滑っても楽しくないしここで泊まろう」。ほっと一息喜んで同意したが、確認したらほとんど降りておらず標高1820mだった。ガッカリ。

4月8日

風が強く寒さを心配したが、テン場選びは正解だったようで、しっかりと樹に守られていた。朝から快晴を期待していたが、残念ながら起床の時点で雪は残っていた。

サブルートとしては窓明山に登り返す案を考えていた。しかし良いのか悪いのか幕場は国体尾根分岐の直下、最短ルートで小豆温泉に下山できてしまう。前日痛めつけられたのもあり、直接下山するという決定がなされたのであった。

稜線から下りだす頃に視界が開ける。気持ちのいい所だが本気で滑るには少しだけ尾根が細い。沢に滑りこみたいなと思っていたら、1500m地点で尾根をはずしてしまい、はずみで思い切って黒檜沢に滑り込むことにした。ここが今回の滑りのハイライトで、まさかの4月パウダー。他のパーティーの下降時にはすでに雪が腐っていたという話なので、一番に下った我々は結果的には当たりだったようだ。

黒檜沢の下部雪割れを想定して尾根に登り返した。ここで噂の栗原さんのツボ足ラッセルを拝むことができた。全く雪に沈むように見えず素晴らしいペース。1308小ピークの先に登り返しここで10時の定時交信となったが、残念な事に他のパーティーとは交信できなかった。

尾根を滑り、880コルから蟹沢に入る。ここからは尾根は細くアップダウンがあるので、沢に入った方が快適であろうと思う。沢は割れており気をつかうものの、通過するだけには十分な雪の量があった。

山頂で交錯したA&Bパーティーが少し羨ましかったものの、快晴の小豆温泉で久しぶりに皆さんと集まる事ができて、やっぱり会山行の喜びを味わえたかなと思う。



【行程】 4/7 葎ヶ平スノーシェッド (7:30)～三岩岳 (15:00)～尾根1820BP (16:00)
6/16 BP(8:00)～国体尾根分岐(8:30)～黒檜沢下降点1500(9:00)～1308尾根
(10:00)～ 小豆温泉スノーシェッド(12:00)

【地図】 檜枝岐、内川

会山行Dパーティ 南会津 大戸沢岳(中退)

煤孫

【日時】 2012年4月7日(土)～8日(日)

【メンバー】L古野、藤岡、煤孫、五十嵐

【4月7日】

スノージェットの手前に車を止めようとしたが駐車スペースがない。みんなでスコップを取り出し、少し広い場所を広げて駐車スペースを作った(下山後に見たら、少し離れた場所なら駐車スペースがあった)。

民家のわきをすぎて登り始める。狙った尾根の1本南側の尾根に取り付いてしまった。パーティで一番若い五十嵐さんが先頭をひいた。この尾根は最初はなだらかだが、950mくらいから1000mくらいまで急になる。自分はスキーにちゃんと乗れていないのか、急斜面でターンしようとするとうまく滑ってしまい、悪戦苦闘した。この登りで大分疲れてしまった。ラッセルしている五十嵐さんについていけず、情けない思いをした。

1000mを超えると斜面がゆるくなり、順調に高度を稼げるようになった。1386m地点で幕場を探し始めた。風が強かったため、少し北よりに下がったところを幕場とし、整地してテントを張った。

14時の交信時には全員がテントの中でくつろいでいた。まだ行動中のパーティに遠慮して、古野リーダーは「幕場を探しています」と交信した。

交信が終わってから宴会をはじめ。つまみが多くて、食当の五十嵐さんが驚いていた。「軽量化って言っていませんでしたか?」。すかさず古野リーダーが「酒とつまみはなくなるから対象外だ」。五十嵐さんはトマの掟に納得したようだった。



写真左:休憩風景



写真右:丸木橋をどう渡ろうか

朝は新雪、昼はベタ雪

日帰りE・Fパーティ 山毛櫛沢山（中退）

大田原 片山

【日 時】2012年4月8日

【メンバー】

E：鈴木（L）、手嶋、坂村、片山

F：大田原（L）、浅井、橋本、福永

会山行日帰りスキーパーティー。行動可能時間が限られるため他に目ぼしい候補地もなく、2パーティーで同ルートへ行くことになった。

8人でズロズロと安越又川の林道を進む。林道の壊れた橋を問題なく通過して山毛櫛沢に入ると、堰堤を右岸より越える。この上が左岸へ取り付く予定点だが、沢が割れており、雪のつながる所まできわどい右岸を進まされた。斜面に取り付いたら、あとはひたすら高みを目指すのみ。



朝は雪

始めはFパーティーが先行しながら

トレースをつけていたが、徐々に差は縮まり同行動に。1285に登り、少し下って1386を目指して再び登り始めると、後方に日帰り歩きパーティーの姿が見えた。この辺りから雪が重くなって滑走面に雪がくっついてしまい、ラッセルに難儀するようになった。時間が差し迫り、1386地点で引き返すことに。天気がよいので山頂がよく見え、残念さが増す。大休止の後、お楽しみの滑降となるが、雪が重く、板が進まない。引っかかる雪ではないが、ターンすると止まりそうになるので、ほとんどみんな直滑降である。ボードで来た福永さんはスキー以上に滑らない雪に難儀しているようであった。お試し山行の片山さんは、上手なテレマークターン…の一端を見せてくれるが、やはり直滑降のような形になっていた。1285を西側から巻いて、登った通りに滑り下る。ま

だまだ雪の状態は変わらず、ほぼ直滑降。スキー下手な私でも転ぶような雪で



昼は快晴に

雪が滑らないため必死にストックで漕がなければならず、汗をしっかりとかき始める頃小立岩に戻った。結局集合には揃って遅刻してしまったのだった。

(大田原)

はないが、本当に滑らない。福永さんはついに諦めスノーシューに戻る始末だった。そんな調子で思いのほか時間がかかり、焦りも出てくる。ダメ押しとしては山毛櫛沢の渡渉。きわどい右岸が日中の融雪のため通過困難になってしまい、渡渉を余儀なくされたのだ。林道に乗っても



軽快に先を進む大田原さんと私

て帰る予定でしたが、途中 1400m付近で、時間切れになって帰ってきました。前日にかなり雪が降って、ラッセルがなかなか大変。先頭に行くのは大田原さん。初めて一緒に行きましたが、これがすごい！！ラッセルしているのに、後ろの人との距離はドンドン開きます。しかも、大田原さんのビンディングの

みなさんはじめまして。片山です。8日のおためし会山行とても楽しくすごしました。楽しい雰囲気だったので、またいっしょに遊びにいけたらと思い、入会することに決めました。

日帰りだったので、朝から登り始め山毛櫛沢山に行っ

音が、とってもリズムカルで、耳でも彼女の歩きが伝わります。平地でも登りでも、変わらないリズムは、とってもいいです。

僕もほんの少しラッセルしてみましたが、数メートルで大田原さんとの経験と体力の差を実感。でもそんなことも楽しく感じられました。僕がラッセルすると、なかなか先に進まなくなるので、後ろから「交替！」の聲がかかり、残念でしたが大田原さんにまた先頭をお願いしました。

下りは、心から楽しい良い時間でした。同じテレマークの坂村さんの後ろ姿を見ると、もっと練習したいと思うと同時に、いい刺激になりました。歩き始めはパウダー、滑り始めは重い雪。ですが、やっぱり山は楽しい！ 悪い重い雪も、もっと滑りたい！！って思いました。朝の雪景色からだんだん晴れてきて、昼頃に見えた景色は、素晴らしかった。最高の1日でした。

【コースタイム】

小立岩 8:20――山毛樺沢出合い 9:00――1386（引き返し地点） 12:00～12:20
――小立岩 14:50



帰りは徒渉になりました。集合に間に合わない・・・

(構成・photo: 鈴木)